

獲得した女子学生の、 社会への送り出し方を考える

石原直子
リクルートワークス研究所
主任研究員

狭義のアトラクション だけでなく

企業経営では人材採用の時に「アトラクション」という言葉を使うことがある。優秀な人材を獲得するために、どのようにして、自社の魅力とそこで働くことの意義を伝えるか。これが「アトラクション＝魅せる」ということである。報酬や福利厚生などももちろんだが、職場環境や人間関係、そしてどのような仕事に従事し、その仕事を通じてどのように成長できるのか、どのようなキャリアを構築し得るのか。そうしたことを伝え、優秀な人材を自社に惹きつけることが必要とされている。

企業の採用活動とある意味同じく、大学も、優秀な学生に多く入学してもらうために、何をもって自大学の「アトラクション」とするかを戦略的に考えなければならない時代になった、ということだろう。本特集では、女子生徒（高校生）にターゲットに絞り、彼女たちがどのような視点で大学を選んでいるのかが明らかにされてきた。

企業と同じく、とは言ったが、企業と大学には大きな違いがある。これは、せっかくアトラクションして獲得した人材であっても、そのほ

とんどが4年（短期大学であれば2年）で去る、という点にほかならない。だからこそ、大学経営者の皆様には、女子学生を獲得するために、彼女らが心動かされる「ツボ」とは何か、という「狭義のアトラクション」だけに拘泥して頂きたくない。過渡期でもあり、最後のモラトリアムでもある数年間を過ごした学生を、どのような形で社会に送り出せるか。この部分に力を入れた、厚みのあるアトラクションを構築して頂きたいと考える。

まずは正確なデータの 収集と公開を

そのためにも、まずは、自大学の卒業生達が、どのようなキャリアを歩んでいるのか、その情報を収集し公開してほしい。特に女性のキャリアには、いくつもの変化がつきものだ。卒業時点での情報だけでなく、卒業生がどんな人生を歩んでいるのか、長いスパンで伝えられれば、大変に価値がある。

必要な情報には以下のようなものが考えられる。卒業生の新卒時の就職先と職種（基幹職・専門職・事務職の別、正社員か契約社員かといった情報）。これが長期時系列で示されていればなお良い。また、卒業生の追跡調査のデータは、女子学

生が長期的なキャリアや人生を考えるには非常に役立つデータになる。先輩たちは初職の会社で何年継続して働いたのか、卒業して10年後あるいは20年後時点で、働いている人の割合、結婚している人の割合、結婚しても働いている人の割合、その中で子どもを持ちながら働いている人の割合はどうか。

このデータが華々しい「実績」を伝えるものである必要は全くない。就職を前にして短視眼に陥りやすい学生に、もっと長期スパンで自分の将来を考える必要があることを気づかせるだけで大いに価値があるだろう。

現時点で、大学側はこうしたデータを、志願者に示せるだろうか。そもそも、これらのデータを収集し、分析しているだろうか。こうした情報などを通じて、自学と社会の接続の形を虚心坦懐に読み取ってからでないと、自学にどのような学生を集めるべきか、集められるかのプランを練ることはできないだろう。

大学時代の女子に リーダーシップ経験を

今の日本社会では、徐々に女性も長く働くことが普通になりつつある。長いキャリアを「楽しく」生

きるためには、仕事でプロフェッショナルになるという意識が必要だ。プロフェッショナルに必要な要素を、リクルートワークス研究所では「専門性」と「リーダーシップ」と定義している。リーダーシップとは「先が見えない中でも意思決定し、他者を巻き込んでゴールに到達する力」と定義できる。

リーダーシップは、実際にリーダーシップが必要とされる経験を通してでないと、身につかないものである。従って、なるべく早い段階から、リーダーシップロール（リーダーとしての役割）を経験することが、これからは男女を問わず重要になってくる。大学には、学生たちになるべく多くリーダーシップ経験を積ませるという役割をもお願いしたいものだ。

ここで、リーダーシップ経験を学生に提供するという点では、実は、女子大学に優位性があると筆者は考えている。共学校では、女子学生は、周囲の状況を読む力に長けていればいるほど、リーダーシップロールを男性に譲る。そのほうが「イタくない」からだ。日本の社会全体が、まだまだ「男性を立てる」ことや、「可愛げ」を女性に求めていることを、彼女たちは本能的に知っている。

この点では、女子大学に通う学生であれば、少なくとも「男性」の目を気にする必要はないし、譲り合ったとしても結局は誰かがリーダーシップロールを担うしかない、と「諦める」こともできる。しかし、そうした経緯であったとしても、ゼミやサークルの代表といったものから、グループワークにおける取りまとめ役にいたるまで、リーダーシップロールにつけば、必ずその中で意思決定の経験、他者を巻き込む経験をすることになる。女性だけの環境であることを逆手にとって、学生たちにのびのびとリーダーシップ経験を積みせる。これは将来の女子大学にとって必要で有効な戦略にならないだろうか。

広い視野で将来を見渡せるのに役立つ深い情報と、豊かな学生生活を学生に提示できる大学こそが、女子学生にとって最も「アトラクティブ」な大学であってほしいと考える。そしてこうした大学を卒業した元女子学生が、自分自身の長いキャリアをしっかりと足取りで歩いていけることこそが、「広義のアトラクション」につながることを願いたい。